

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-C-11		更新日		2025/2/10	
サイト名		たたら操業の遺跡～ ^{たぎ さくらいけ} 田儀櫻井家たたら製鉄遺跡					
基本情報	区分	☒ 有形 ☐ 無形 ☐ その他				 	
	所在地	出雲市 多岐町・佐田町					
	指定別	「田儀櫻井家たたら製鉄遺跡」(宮本鍛冶山内遺跡・朝日たたら跡・越堂たたら跡・聖谷たたら跡) 国指定					
	種別	史跡名勝天然記念物					
	指定／登録年月日	2006(平成18)年1月26日					
	管理団体／モニタリング	出雲市					
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(10台)					
	留意点	越堂たたらに隣にガイダンス施設(無料)あり。					
サイトの解説	歴史・文化	田儀櫻井家は、近世出雲を代表する鉄師で、江戸時代初期から1890(明治23)年までの約250年間続いた。田儀櫻井家たたら製鉄遺跡は、多くの遺跡から構成されているが、以下の4か所が国史跡に指定されている。 越堂たたらは、「海のたたら」といわれ、天然の良港である田儀浦の近くに立地する「たたら場」である。日本海の廻船によって砂鉄・木炭を外部から調達し、約150年もの長期にわたって操業された。発掘調査によって、良好に残存する製鉄炉地下構造(床釣り)が検出された。 朝日たたら・聖谷たたらは、「山のたたら」といわれ、砂鉄・木炭を近隣から調達することができる中国山地に立地する「たたら場」である。発掘調査によって、良好に残存する製鉄炉地下構造(床釣り)が検出された。 宮本鍛冶山内遺跡は、「たたら場」で生産された「銑(ずく)」「歩鋤(ぶけら)」を脱炭して「割鉄(包丁鉄)」を生産した「大鍛冶場」やたたら製鉄従事者の居住場所があった。 上記の「山のたたら」「海のたたら」双方を有する総合的なたたら製鉄で生産された鉄は、田儀浦から廻船によって北陸・九州・大坂へ出荷された。豊富な砂鉄・木炭が供給できる中国山地、および天然良港に隣接しているという「地の利」を活かしたたたら経営によって、田儀櫻井家の鉄生産は出雲国でもトップクラスを誇った。					
	地質・地形、生態等	田儀櫻井家たたら製鉄遺跡は、出雲市多岐町や佐田町の田儀川やその支流である宮本川流域、小田川や神戸川上流の流域に広く点在し、約43箇所の跡地が確認されている。これらの遺跡場所には、よく知られた風化花崗岩(真砂土)ではなく、新生代中期中新世の火山岩類が分布することから、製鉄の材料となる砂鉄は他所から搬入されていた。田儀港に近い所にあった「越堂たたら」は、海運で搬入された砂鉄を銑鉄(最初の鉄の塊)にして、また海運を利用し出荷する方法をとっていた。					
写真・図等		 宮本鍛冶山内遺跡		 越堂たたら			
参考文献		杉原清一ほか 1983『朝日鋳跡発掘調査報告書』佐田町教育委員会 松尾充晶 2004『石造物からみた田儀櫻井家』『田儀櫻井家田儀櫻井家のたたら製鉄に関する基礎調査報告書』多岐町教育委員会 石原聡ほか 2008『田儀櫻井家たたら製鉄遺跡発掘調査報告書』出雲市の文化財報告1 出雲市文化観光部文化財課 幡中光輔 編 2021『史跡田儀櫻井家たたら製鉄遺跡 越堂たたら跡整備基本計画書』出雲市					